

許諾書【記入例】

令和●年●月●日

鹿屋体育大学長 様

(フリガナ) ●●●●●●

氏名は自署としてください。 → 氏名 ●●●●●● (署名)

学位の区分 課程博士 ・ 論文博士

所属(専攻まで記入) 体育学研究科体育学専攻

学籍番号(課程博士のみ) ●●●●●●

学位取得後の連絡先

住所: 〒●●●●-●●●● ●●県●●市●●-●●

電話: ●●●●-●●●●-●●●●

E-mail: ●●●●@●●●●

私が提出した博士論文について、以下の留意事項を踏まえ、鹿屋体育大学学術情報リポジトリにて公表することを下記のとおり許諾します。

<留意事項>

1. 博士論文は、全文を公表します。
2. 学長がやむを得ない事由があると認めた場合は、博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表します。
なお、出版刊行や学術ジャーナル等への掲載により公表に制約がかかる場合にあっては、公表が制約される期間を明記した上で、当該期間経過後に博士論文の全文を公表します。
3. 博士論文の全文をインターネットで公表しない場合、又は一定の期間を非公開とする場合であっても、製本をもって本学附属図書館窓口にて閲覧することを認めます。
4. 国立国会図書館で利用されることを認めます。
5. 学術ジャーナルへの掲載又は出版刊行等のため、インターネットでの公表に際し著作権処理が必要になる場合は、適切にします。

記

※ 博士学位授与後に論文全体をインターネット利用により公表することについて、以下の選択肢(【全文の公表が可能】、【全文の公表の一時的な保留を希望】、【要約の公表を希望(全文の公表ができない場合)】)のいずれかの□にレ点チェックの上、博士学位授与申請に併せて提出してください。

裏面につづく

□【全文の公表が可能】

提出した博士論文(全文)について、公表することに問題はありません。

上記留意事項の「やむを得ない事由」に該当しないことを確認しました。

□【全文の公表の一時的な保留を希望】 ※ 保留期間中は要約を公表

提出した博士論文(全文)について、下記事由のため、インターネット公表の一時的な保留を希望し、保留期間中は要約を公表します。なお、下記事由の消滅等に伴う所定の届出書(別紙様式第19号)については、自動的に公表となる場合を除き必ず提出いたします。

項 目	事 由	様式：別紙様式19の提出時期
□図書出版	□出版済み。出版社の著作権ポリシーを確認した結果、(令和 年 月 日まで)公表することができない。	提出不要・自動的に公表
	□出版予定(令和 年 月 月予定)で、出版社の著作権ポリシーを確認した結果、(出版後・令和 年 月 日まで)公表することができない。	公表可能日(直後)
	□出版予定(令和 年 月 月予定)で、出版社の著作権ポリシーを確認することができない。	出版予定日又は出版日(直後)
□学術ジャーナル等への掲載	□掲載済み。出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、(令和 年 月 日まで)公表することができない。	提出不要・自動的に公表
	□掲載予定(令和 年 月 月予定)で、出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、(掲載後・令和 年 月 日まで)公表することができない。	公表可能日(直後)
	□掲載予定(令和 年 月 月予定)で、出版社等の著作権ポリシーを確認することができない。	掲載予定日又は掲載日(直後)
□特許・実用新案出願	□特許出願予定又は審査中(出願公開前) 出願(予定)：令和 年 月	出願公開日(直後)
	□実用新案出願予定又は審査中 出願(予定)：令和 年 月	登録日(直後)
□その他	(具体的な事由を記載)	事由の消滅日

□【要約の公表を希望(全文の公表ができない場合)】

提出した博士論文(全文)について、下記事由のため、インターネット公表はできませんので、要約での公表を希望します。

(具体的な事由を記載してください)

- (記入例)
- ・図書出版や学術ジャーナル等への掲載において、出版社等の著作権ポリシーを確認した結果、全文での公表ができない。(出版社等の著作権ポリシーを明記した書類の添付が必要)
 - ・博士論文が立体形状による表現等を含むためインターネットでの公表ができない。
 - ・秘匿すべき情報を含む又は公表することで重大な支障をきたす恐れがあるため。